

CBC NEWS LETTER

Vol.8, No.1, Nov.2007

国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター



ニュースレター [Vol.8, No.1]

INDEX

1. 平成19年11月7日、小樽商科大学ユーザビリティ・ラボがオープン!!
2. 北洋銀行ものづくりテクノフェア2007に出展
3. 第一回国際シンポジウムにCBCが積極関与
4. 北海道経済産業局主催「マーケティングセミナー」で講義
5. CBC主要日誌
6. 投稿案内

1. 平成19年11月7日、小樽商科大学ユーザビリティ・ラボがオープン!!

小樽商科大学ビジネス創造センターでは、今年度から、「人間中心設計」に関わる研究開発を推進するために、文部科学省の支援のもと、ユーザーエクスペリエンス研究部門が設置されることになりました。この種の研究部門としては、国内の人文系の学部では初めての設置となります。そして、この研究開発を支える研究設備として、ユーザビリティ・ラボを開設いたしました。このユーザビリティ・ラボは、JR 小樽駅前があり、立地の良さから、多くの方に利用していただけるものと期待しております。

ユーザビリティ・ラボは、文部科学省知的クラスター創成事業の成果を引き継ぎ、新たに小樽駅前第一ビル内に設置しました。一般的には、ICT 関連製品のユーザビリティ（使いやすさ）を評価するために考案されたものです。既に、大手の ICT 企業では一般的に整備されるようになっていますが、小樽商科大学のラボは、総面積 170 m² という広さを持ち、中央に観察室、その両脇に2つの実験室が併設され、16ch および 32ch のマトリックススイッチャーを基本に多彩なユーザー行動を分析することが可能な、国内でも有数の設備／システムが整備されているものです。一般企業に公開されているものとしては、国内でも極めて数少ない設備です。さらに、2つのラボをシンクロさせることによって、コミュニケーション型のシステム（例えば、コールセンターシステム、e-Learning など）を分析ができます。この点は、この設備の大変にユニークな特徴であります。

ユーザビリティ・ラボは、本来のシステム（製品）のユーザビリティテスト以外にも多くの活用ができるようになっています。ユーザーを集めたフォーカスグループ（グループインタビュー）や、構造化インタビューなど、商品企画のための詳細なデータを収集できます。

ユーザビリティ・ラボの設備



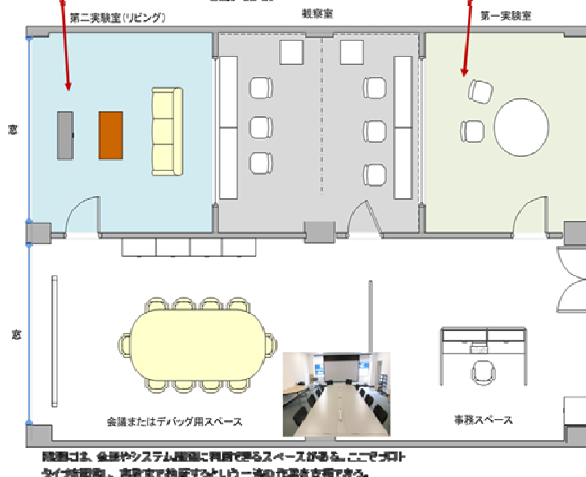
第二実験室は、リビング環境を模倣している。室内で利用する様々なシステムや製品、画面を観望して、その利用状況や分析することができる。天井にはカメラが設置されている。



観察室は、それぞれの実験室に対して設置することができる。また、実験室には、多様なカメラを設置することができ、それぞれのマトリックススイッチャーで切り替えることによって、統合的に観測することができる。



第一実験室は、一般的なユーザビリティ評価のための設備である。その他、商品イメージ、音声などの官能検査にも利用できる。天井にはカメラが設置されている。



観察室は、各実験室システム稼働時に同時に観測できるスペースがある。ここで複数カメラで観測し、実験室で検証するという一連の作業を支援できる。



11月7日(水) 学内外の関係者が出席により開所式が行われました。

ユーザビリティ・ラボのご利用についてのお問い合わせは0134-27-5471までお電話を。

2. 北洋銀行ものづくりテクノフェア2007に出展

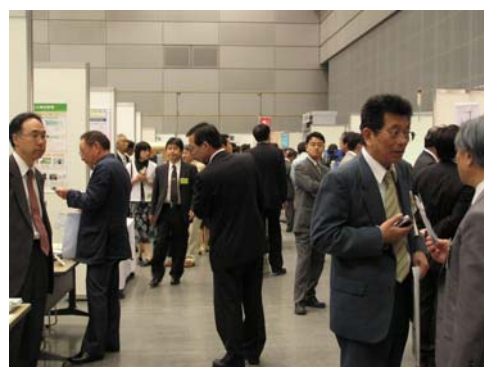
6月12日(火)に行われた「北洋銀行ものづくりテクノフェア2007」(於:札幌コンベンションセンター)に出展しました。

このフェアは、今年初めて開催されたものです。北海道の未来を支える“ものづくり産業”の活性化を図るため、すぐれた技術・製品を有する道内の中小企業や、大学、研究機関、支援機関等107社が出展しました。当日は2,000名を超える来場者があり、“ものづくり関係者”と商談や情報交換、技術交流等が行われました。

CBCでは、札幌医科大学、北海道東海大学とそれぞれ締結した包括協定及び、「ユーザビリティ・ラボ」のパネルでの紹介、大学紹介DVDの上映を行うと共に、ビジネス相談コーナーを設け、5名のCBCスタッフがブースにおいて来場者への対応を行いました。また、配付資料として、大学紹介、ビジネススクール紹介、センター紹介パンフレット等の資料を準備しましたが、事前に用意した60部ほとんど全てを配布することが出来ました。



来場者にCBCの紹介を行うスタッフ



会場の様子

3. 第一回国際シンポジウムにCBCが積極関与

平成19年9月20日(木)21日(金)の二日間、本学国際交流センターが中心となり国際シンポジウムが開催され、本学の協定校である東北財形大学(中国)、忠南大学(韓国)が参加しました。CBCからも2名の教員が参加し積極的に関与しました。

1: テーマと問題意識

本シンポのテーマは「東アジアにおける大学のビジネス教育について」でした。参加三大学は、いずれもビジネススクール(MBA)を擁しています。MBAの教育プログラムは各国で違いますが、基本的なプログラムは米国のAACSB(The Association to Advance Collegiate Schools of Business)が定めるスタンダードに基づいて組み立てられています。しかし、実社会のビジネスにおいては、アメリカの基準が必ずしもグローバルな基準ではありません。それと同様に、教育プログラムにおいても、アジアにはアジアにふさわしいビジネス教育プログラムが必要なのではないか、と言うのが本シ

ンポジウムの問題意識でした。

2：講演会とパネルディスカッション

基調講演は、北洋銀行の横内頭取から「北海道におけるビジネス教育への産業界からの期待」と題して行われました。同氏は、まずアメリカンスタンダードへの疑問を呈した後、アントレプレナーシップを持った人材の育成が急務であると話されました。次いで、参加三大学から講演が行われました。本学からはビジネススクールの近藤公彦教授が講演しました。同氏は、CBCの研究部主任でもあります。同氏は昨年6月まで米国ノースウェスタン大学大学院に客員教授として在外研究を行っていません。同氏は同大学のケロッグ・スクールと言う世界屈指のビジネススクールでの経験をベースに、アジアにおけるビジネス教育にはアジア型プログラムを導入すべきであるとの意見を述べました。

パネルディスカッションは、三大学から各校二人のパネリストが参加し、全て英語で行われました。モデレーターはCBCセンター長の海老名教授が勤めました。パネルでは各大学のMBA教育の現状が紹介された後、上記問題意識（AACSBに基づく教育の問題点）につき意見交換が行われました。パネラーは、AACSBがMBA教育のベースであるとしても、各国・各地の実情に即した教育プログラムの開発が必要と言う点で一致しました。

尚、本シンポジウムは今回が第一回であり、来年は韓国で、再来年は中国で行われる事が確認されました。



4. 北海道経済産業局主催「マーケティングセミナー」で講義

北海道経済産業局はNPO法人北海道活性化センターとともに、「ベンチャー企業のラストワンマイルを繋ぐマーケティングセミナー」を、8月25日、9月8日、29日の3回にわたって本学札幌サテライトを会場に開催しました。本学CBCからは、近藤公彦教授（研究部主任、大学院アントレプレナーシップ専攻）、田中幹大准教授（情報資料部主任、商学科）がセミナー講師として講義を行いました。セミナーは、北海道の「豊富な天然資源」「ブランド力」「研究拠点の集積」といった強みを活かし、機能性食品や化粧品等を製造・販売するベンチャー企業に対して、「基礎研究」「応用研究」「商品開発」までを何とかクリアしたとしても、「売れる商品企画」「PR」「販売」といったマーケティング戦略が不得手なために、収益に結びつかないケースが多い現状への打開策を示すものでした。近藤教授は、「価値創造のマーケティング」、田中准教授は、「企業連携による売れる商品開発」と題してそれぞれ講義を行いました。参加者は多数にのぼり、熱心に聴講、質疑応答しました。



5. CBC主要日誌

4月10日（火）	第1回主任会議
4月27日（金）	第1回運営会議 審議：1) CBCフェローの委嘱について 2) 平成19年度予算執行計画（案）について 報告：3件
5月 8日（火）	第2回主任会議
5月 8日（火）	第2回運営会議（持ち回り） 審議：平成18年度予算執行実績調書（第5次）の提出について
5月30日（水）	第3回運営会議 審議：北洋銀行ものづくりテクノフェアへの出展について 報告：2件
6月 7日（木）	第3回主任会議
6月 7日（木）	第4回運営会議（持ち回り） 審議：小樽商科大学学生論文賞実施要領について
6月12日（火）	北洋銀行ものづくりテクノフェア2007出展（札幌コンベンションセンター）
6月26日（火）	第5回運営会議（持ち回り）報告：4件
6月28日（木）	第1回学生論文賞実施委員会
7月 2日（月）	第4回主任会議
9月 6日（木） - 7日（金）	第20回国立大学法人共同研究センター専任教官（教員）会議出席（金沢大学）参加：海老名センター長，一瀬産学官連携コーディネーター
9月 8日（土）	マーケティングセミナー（主催：北海道経済産業局 共催：小樽商科大学他）（小樽商科大学札幌サテライト） 講師：近藤研究部主任
9月10日（月）	第2回学生論文賞実施委員会
9月13日（木） -14日（金）	社会科学系3大学地域共同研究センター定期情報交換会出席（滋賀大学彦根キャンパス）参加者：海老名，大津副センター長，今野助手，酒井研究協力係長以上4名
9月20日（木） -21日（金）	国際シンポジウム出席 基調講演：近藤 モデレーター：海老名
9月29日（土）	マーケティングセミナー（主催：北海道経済産業局 共催：小樽商科大学他）（小樽商科大学札幌サテライト） 講師：田中情報資料部主任
10月 9日（火）	第5回主任会議
10月18日（木）	第6回運営会議（持ち回り） 審議：小樽駅前ビルユーザビリティラボ規程の整備について
10月18日（木） -19日（金）	第19回国立大学共同研究センター長等会議出席（於：新潟グランドホテル）参加者：海老名，和田総務部主任，持田研究協力係員以上3名
10月31日（水）	第7回運営会議 審議：1) 学外協力スタッフの採用について 2) 平成20年度客員研究員受け入れについて 報告：6件
11月 6日（火）	第6回主任会議
11月 7日（水）	小樽商科大学ユーザビリティ・ラボ開所式
11月 7日（水）	第8回運営会議（持ち回り） 審議：平成19年度年度計画の進捗状況の中間報告について

5. 投稿案内

ニューズレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿，問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが，投稿原稿の採否，掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

○ 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部（田中幹大）

Eメール：tnk@res.otaru-uc.ac.jp

編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター（CBC）のニューズレターVol. 8, No. 1を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニューズレターにするために，今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。（情報資料部）

国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター（CBC）
〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
事務室 TEL 0134-27-5290
FAX 0134-27-5293
Eメール cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp